

米国農務省 2034年までの果実・ナッツ類の生産見通し

FreshFruitPortal 2025年2月26日

米国農務省は、2023年から2034年までの米国の農産物貿易と国内生産の農業予測を発表した。これは、果実とナッツ類の様々な市場動向を示している。

このレポートは、世界の主要市場のGDP成長予測をカバーしている。まず米国では、2025年から2034年までの予測期間中の実質GDP成長率を、過去10年間(2015年~2024年)の成長率の2.3%よりもかなり低い年平均1.8%と予測している。

報告書は、「ただし、過去10年間の成長率には、パンデミック前の高成長と、パンデミック後の成長率の大幅な回復が含まれている」としている。

全体として、米国の予測成長率は、緩やかで着実な成長を映し出している。

(以下、一部要約: その他の高所得国・地域では米国よりやや成長が鈍く、欧州連合(EU)は過去10年と同様の1.6%、日本は高齢化と労働力不足にインフレと円安が加わった下降傾向が続き0.9%、カナダは過去10年を上回る1.9%と予測。低中所得国・低所得国は着実に成長し、低所得国では過去10年及び高所得国を上回る平均5.0%で、引き続き農産物需要の重要ファクターと予想。成長率は地域間の差が大きく、中国、インド、東南アジアは世界で最も成長率が高く、東アジアと中南米(3.0%)はより保守的な成長を予測。)

果実とナッツ類の予測

果実、ナッツ類、野菜、豆類を合わせた農場出荷額は、2023年の565億ドルから2034年までに688億ドルに達すると予測されている。2034年までに、果実(柑橘類及び非柑橘類)の出荷額は、このカテゴリの合計出荷額の37%を占めるようになると見込まれる。

米国の果実とナッツ類の生産量は、この期間を通じて約500億ポンド(約23百万トン)にとどまると予想されている。これらの出荷額は、2023年の288億ドルから2034年には355億ドルに達すると予想されている。

ブドウ、イチゴ、リンゴの生産量はわずかに増加すると予想される一方、モモ、スモモ、アンズ、ネクタリン等核果類の生産量は緩やかに減少すると予想される。

柑橘類以外のすべての果実の生産量は23%増加し、221億ドルに達すると予想されている。

柑橘類の闘い

オレンジ、グレープフルーツ、レモン、タンジェリン等柑橘類の総生産量は、長期的な減少が予想期間の半ばまで続いた後、安定するものと予想されている。

報告書は、「この傾向は、オレンジとグレープフルーツの生産量が減少し、レモンとタンジェリンの生産量が増加することに起因している」としている。

カリフォルニア州は引き続き、国内最大の柑橘類生産州であると予想される。しかし、グレープフルーツとオレンジの生産量は、他の柑橘類及び非柑橘類の果実に国内市場のシェアを奪われるため、穏やかに縮小すると予想される。この期間中、同州のレモンとタンジェリンの生産は増加する。

一方、フロリダ州の柑橘類生産者にとっては、何十年にもわたる生産量の減少がさらに続くと思われる。同州内の多くの果樹園は、他の用途に転換されることが予想される。同州は何年もの間、カンキツグリーンング病と異常気象に苦しんできた。

全米の柑橘類生産量に占める割合が小さいテキサス州とアリゾナ州でも、その生産量と栽培面積が減少するものと予想される。

報告書は、「米国の柑橘類の総生産額は、価格の上昇により、2023年から34年の間に約40%増加すると予測される」としている。